

## 大学生の学校適応と授業態度に関する研究

松 井 洋

大学の授業における私語は今や一般的なできごとですらある。また静かにしていても授業内容をまったく聞いていないということもよくある。このような大学の授業の問題は教員の責任でもあるが、学生の大学に対する全般的適応とも関係があると考えられる。すなわち、個々の授業における学生の意欲や理解は、大学における勉強に対する学生の全般的な意欲の反映にすぎないとも考えられる。このような勉学意欲の低い学生は、大学生の大学不適応の中では留年などと比べてめだたないが、重要な問題と考えられる。また、このような大学生の学校不適応や意欲の低下などの問題の原因として、大学進学率の上昇によって、本来高等教育を受ける素地や意欲がないまま大学に進学する青年が増加したこと、自分の志望より偏差値を優先して進学する傾向があること、現代青年の特性に問題傾向があること、大学の教授内容、教授方法がこのような学生に適合していない等、学生の側、大学・教員の側、そして、それらを取りまく社会一般の要因が考えられる。

本研究は、以上のような大学生の学校や授業への適応と、実際の授業における態度や行動について、それらの態度や行動の構造と原因を検討することが目的である。

### I. 方法

#### 1. 被験者

必修科目を授講している大学生女子1年生102名。

#### 2. 手続

授業時に下記の調査と授業内容の理解度の試験を行った。また、授業開始10分前より授業終了後までVTRによって学生の行動を記録した。この行動記録については今回は分析しない。

#### 3. 調査内容

調査内容はⅠ. 大学に対する態度、Ⅱ. 授業に対する態度、Ⅲ. 授業中の行動、Ⅳ. 個人特性、Ⅴ. 授業の理解度の試験の5部よりなる。Ⅰ. 大学に対する態度は、大学の授業や友人関係についての満足—不満足や態度、進学の理由等に関する22項目である。Ⅱ. 授業に対する態度は、調査を行った授業についての満足—不満足や態度についての14項目である。Ⅲ. 授業中

の行動は、着席位置、私語の程度・相手等に関する5項目である。Ⅳ．個人特性は、共感性、好奇心や情緒性等の個人の性格特性や対人関係に関する62項目である。この項目については、中里他1990、松井1991の中学・高校・大学生を対象にした問題行動・道徳性・社会性・性格に関する調査を基に作成した。Ⅴ．授業の理解度の試験は、調査を行った授業内容についての3肢選択問題10問である。以上の合計113項目からなる調査を実施した。

## Ⅱ．結果

### 1. 調査項目の分析

調査内容を分析するために、Ⅰ．大学に関する項目、Ⅱ．授業に関する項目、Ⅲ．個人に関する項目別に因子分析（varimax 回転、以下同じ）を行った。なお、分析には、多摩大学今泉忠の micro SPS を用いた。

大学に関する項目について3因子を抽出した（後述）。

授業に関する項目について3因子を抽出した（後述）。

個人に関する項目について10因子を抽出した。各因子の項目、因子負荷量等に関する詳述は、本研究の直接の目的からはずれるので省略する。10因子の概要は以下のとおりである。第1因子は『充実感』の因子で、「毎日が楽しい」、「いきいきしている」、「充実している」という項目の負荷量が大きい。第2因子は『好奇心』の因子で、「いろいろなことを知るのが楽しみ」、「世界のこともっと知りたい」等の項目が含まれる。第3因子は『道徳性』の因子で、「嘘をつくことは悪い」、「皆が幸せにならなければ個人の幸せはない」等の項目が含まれる。第4因子は『対人適応』の因子で、「友達がたくさんいる」、「友達とうまくやっている」、「先頭にたって行動する」等の項目が含まれ、対人的な適応と、社交性、情緒安定性、活動性を含む適応、特に対人適応の因子である。第5因子は『愛他性』の因子で、「人が困っていると助けずにいられない」、「失礼なことをされるとだまっていない（－）」、「自分を抑える」等の項目が含まれ、愛他性と自己抑制の両者を含む因子である。第6因子は『規則を守る』因子で、「規則正しい生活をおくっている」、「礼儀正しいほう」、「きまりはきちんと守る」等の項目が含まれる。第7因子は『同調性』の因子で、「回りの人に同調しやすい」、「人の目が気になる」、「人の悩みごとが気になる」等の項目が含まれ、共感性にも近い因子である。第8因子は『きまじめさ』の因子で、「神経質なところがある」、「がまん強いほう」、「きまりはきちんと守る」等の項目が含まれる。第9因子は『意志の弱さ』の因子で、「将来より今が楽しければよい」、「深刻な話は大嫌い」、「回りに同調しやすい」、「自分の意見をはっきり言う（－）」等の項目が

大学生の学校適応と授業態度に関する研究

表1. 大学に対する態度・満足度の因子と因子負荷量

項目	第1因子	第2因子	第3因子
授業満足	<b>-0.6429</b>	-0.0604	-0.3599
友人満足	<b>-0.4021</b>	0.2561	0.0418
授業興味	<b>-0.7298</b>	-0.1584	-0.1997
学科・専攻満足	<b>-0.6645</b>	0.2210	-0.1731
授業に期待	-0.1267	-0.0352	-0.0809
内容むずかしい	-0.0485	<b>0.7618</b>	0.0564
理解できない	0.1736	<b>0.7317</b>	0.0511
早すぎる	0.0880	<b>0.7110</b>	0.0618
つまらない	<b>0.6736</b> (—)	0.3725	-0.0374
出席のため	0.2180	0.2025	<b>0.5879</b>
私語	-0.0724	0.2994	<b>0.5434</b>
ジュース	-0.2603	0.0146	0.2992
本を読む	0.3083	-0.0120	0.3449
よくねる	0.1550	-0.2768	<b>0.6822</b>
ぼんやり	0.2185	-0.0668	<b>0.6885</b>
私語がうるさい	0.1349	-0.3219	-0.0706
学校行きたくない	0.2543	-0.1911	<b>0.4668</b>
大学満足	<b>-0.6631</b>	0.2215	-0.0891
授業不満	<b>0.6379</b> (—)	0.2391	-0.0852
受験勉強をした	-0.2724	0.0145	0.1680
入学後気がゆるむ	-0.1345	0.3141	<b>0.6340</b>
のんびりした	-0.0774	0.3130	<b>0.6211</b>
勉強は役に立つ	<b>-0.6225</b>	0.2111	-0.1057
Squares	3.7619	2.6054	3.0726

含まれる。第10因子は『抑制力』の因子で、「友達からいわれると嫌といえない (—)」、「目先の楽しみに負けやすい (—)」、「将来のために努力する」等の項目が含まれる。以下の分析では、個人特性についてはこの10因子によって検討を行う。

## 2. 大学に対する態度・満足度

### 1) 大学に対する態度・満足度の因子

調査項目のうち、大学に関する項目について因子分析した結果は表1. のとおりである。第1因子は「授業に興味」、「授業つまらない (—)」、「学科・専攻満足」、「大学満足」、「勉強は

役に立つ」,「授業満足, 授業不満 (一)」,「友人満足」の項目の因子負荷量が大きい。そこで、この因子は『大学満足』の因子と言える。これらの項目は因子数を増した因子分析を行なっても容易に分離しない。それ故、大学に対する満足感は授業, 友人, 学科や専攻に対する満足感を総合した態度だということが言える。

第2因子は「授業の内容が難しい」,「授業の内容が理解できない」,「授業の進み方が早すぎる」という項目で、『大学の授業理解』の因子と言える。

第3因子は「授業中ぼんやりとする」,「授業中よくねる」,「大学に入って気がゆるんだ」,「大学ではのんびりしたい」,「出席のために出ている」,「よく私語をする」,「大学に行きたくないことがある」という項目で、『大学に対する態度』の因子と言える。ここでは、授業における行動や勉強に対する態度と「入学して気がゆるんだ」,「大学ではのんびりしたい」という大学入学時の態度とが同じ因子だということが注目に値する。すなわち、授業における問題ある態度は大学進学に対する心構えと関係が深いという事が言える。

## 2) 大学に対する態度・満足度の規定因

上記のような大学に対する態度・満足度はどのような要因によって形成されたものだろうか。この点を分析するために、上記3因子と関係が深く、なおかつ、大学に対する態度や満足度の原因となると考えられる、授業不満要因, 進学態度, 関心, 個人特性の項目・因子について分析した。表2. は各因子と5%以下で有意な関係のあった要因である。なお、進学態度と関心は $\chi^2$ 検定であり、個人特性は相関係数である。また、各因子の合計得点は項目の素点合計であり、合計する時に質問の方向と内容から+と-の値を調整してある。表の-の表示は意味の上で-ということの意味する(以下同じ)。

### (1)大学満足

『大学満足』の因子と関係が深いものは、表2. のように授業不満のSQである「興味のある話題がない」,「話がつまらない」,「教師が魅力がない」という授業に対する不満や教師への不満が大学不満と関係している。また、友人関係に関心があることがマイナスなのは、現在の友人関係に不満な学生が、友人関係に関心を持ち、そして、そのような学生は大学に満足していないということを示している。以上のことから『大学満足』は授業, 教師, 友人の要因で成り立つと言える。

『大学満足』の因子は、上記のように授業や教師, 友人と関係がある、と同時に、因子内に友人, 授業, 学科・専攻の満足感を含んでいる。そこで、これらの要因の大学満足感に及ぼす影響の大きさを検討するために、『大学満足』因子のうち内容からみて代表的な「大学生活に

表 2. 『大学満足度』, 『大学授業理解』, 『大学に対する態度』の 3 因子と有意な関係のある項目

大学満足	大学授業理解	大学に対する態度
授業不満 SQ, 不満の理由 興味ある話題がない(-) 7.328** 話がつまらない(-) 4.541* 教師が魅力ない(-) 3.447†	進学 SQ 進学の理由 大学を出ないと不利(-) 3.951*  個人特性 きまじめさ .2267*	授業不満 SQ, 不満の理由 一方的に話すだけ(-) 5.282*  関心 授業 10.151** アルバイト(-) 4.082*  進学 SQ 進学の理由 専門の勉強 14.622** 大学を出ないと不利(-) 4.195* 川村だったから (-) 3.741†  個人特性 充実感 .2759** 好奇心 .3277** 規則を守る .2257* 意思の弱さ .2134* 抑制力 .2782**
関心 友人(-) 5.2317†		

注. 値は, 個人特性は相関係数, 他は  $\chi^2$  値.

\*\*p<.01, \*p<.05, †p<.1.

満足している」項目について判別分析を行った。説明する項目は「大学生生活満足」の項目と有意な相関のあった項目である（以下同じ）。判別分析の結果, 判別率は77.22%であった。すなわち, 大学に満足できるか否かは下記の項目ではほぼ説明と予測ができるということである。項目と判別係数は以下のとおりである。なお, 判別係数の+と-の値は質問の方向等によって項目の示す意味の方向性とは一致しないことがある（以下同じ）。

授業満足	0.8305
友人満足	1.0284
学科・専攻満足	0.4426
授業不満	-0.0535
好奇心	0.0011
対人適応	-0.0125
意志の弱さ	-0.0806

以上のように「大学生生活満足」は第一に友人満足，第二に授業満足，そして第三に「学科・専攻満足」からなる態度だということがわかる。

### (2)大学の授業理解

『大学の授業理解』については表2.のように，理解していない人は，進学理由の質問項目の選択肢から「大学を出ていないと不利だから」をあげ，個人特性として『きまじめさ』が関係がある。以上のように『理解』と関係する変数は少なく相関の程度も低い。『理解』の構造を分析したいので，この因子の中で内容的に代表する「授業が理解できない」項目を使って判別分析を行った。判別分析の結果78.43%の高い判別率を得た。項目と判別係数は以下のとおり。

授業に興味	-0.4456
内容が難しい	1.6368
進み方早すぎる	-0.0622
授業の仕方つまらない	0.1731
きまじめさ	0.0553

以上のように『授業の理解』については内容の難しさでは説明できる。つまり教員が適切と考える授業のレベルについていけない学生が理解できないと感じているわけであり，学生の態度や授業の興味深さとはあまり関係がないと言える。つまり，大学の授業が理解できないということの原因の多くは学力等の学生の側の問題にあると考えられる。このことは，『理解』の因子と相関する要因が少なかったことから支持される。因みに，本対象者の場合，理解できない，難しいという傾向が少しでもある者は約半数弱である。ただし，「授業に対する興味」も理解度と関係があり，学力以外の学生の態度や心構えが理解度と全く無縁とは言えない。

### (3)大学に対する態度

『大学に対する態度』と関係する要因は表2.のように「授業が一方的」という授業不満の理由，「大学を出ていないと不利」という進学理由が態度の悪さと関係し，「授業に関心がある」という関心の度合と「専門的知識を勉強したかった」という進学理由が態度の良さと関係する。また，個人特性では『好奇心』，『抑制力』，『充実感』等が態度の良さと関係する。授業不満・進学の理由，授業の関心は多肢選択項目なので判別分析は行わない。表2.の $\chi^2$ 値と相関係

数から判断して、『大学に対する態度』は進学時の態度，授業の方法，本人の関心と個人特性がそれぞれ規定する態度と言える。

### 3. 授業に対する態度

#### 1) 授業に対する態度の因子

授業に対する態度とは，前述のようにこの調査を行った特定の授業に対する態度である。特定の授業に対する態度を分析する目的は，特定の授業に対する態度と大学全般に対する態度との関係を検討することと，後述の授業における行動と態度との関係を検討することにある。

授業に関する項目の因子分析の結果3因子を抽出した(表3)。第1因子は『授業への意欲』の因子で，「必修だから(－)」，「出席のため(－)」，「内容に興味」，「話題がつまらない

表3. 授業に対する態度の因子と因子負荷量

項目	授業への意欲	授業態度	授業理解
前から興味	<b>-0.4159</b>	0.1149	-0.2979
内容に興味	<b>-0.7468</b>	0.0401	0.1060
むずかしい	0.0446	0.0279	<b>-0.7390</b> (－)
理解できない	0.3044	-0.0138	<b>-0.7232</b> (－)
早すぎる	0.1559	-0.2695	<b>-0.6627</b> (－)
しかたつまらない	<b>0.6912</b> (－)	0.1438	-0.3585
話題つまらない	<b>0.7107</b> (－)	-0.0421	-0.2802
出席のため	<b>0.7487</b> (－)	0.1429	0.0425
必修だから	<b>0.8158</b> (－)	0.1740	-0.0306
ジュース	-0.0807	<b>0.4644</b> (－)	-0.1657
食べた	0.1186	<b>0.6809</b> (－)	0.1577
本を読む	0.2440	<b>0.3733</b> (－)	-0.0146
ねた	0.2959	-0.2852	<b>0.4013</b> (－)
ぼんやり	<b>0.4498</b> (－)	-0.1469	0.0740
何かわからない	<b>0.4300</b> (－)	0.1401	-0.1787
席(タテ)	-0.2767	<b>0.5286</b>	0.2589
席(ヨコ)	0.0469	<b>0.3756</b>	-0.3209
席(一致)	-0.0111	-0.1101	0.3054
私語	0.0467	<b>0.5923</b>	-0.1815
私語(人数)	-0.0505	<b>-0.7219</b>	0.0092
Squares	3.6972	2.4073	2.3655

(一)、「授業の仕方がつまらない (一)」等の項目からなる。これらの項目から考えるとこの因子は授業や勉強に対する興味や意欲の因子である。ここでは、授業の仕方の項目と興味の項目が同じ因子であること、今の授業に対する興味と、履修前からの興味が同じ因子であることが注目される。これらの項目群は因子数を変えた因子分析でも容易に分離しない。すなわち、授業に興味を持つかどうかは、事前の心構えと授業の進め方によって決まるということである。

第2因子は『授業態度』の因子で、「私語の人数」や「私語の頻度」、「なにかを食べる」、「ジュースを飲む」という項目、そして、着席位置に関する項目からなる。ここでは、授業中の問題ある項目が1因子であることが注目される。すなわち、授業中の態度の悪さは個々の行動の問題ではなく、一貫した態度の問題と言える。また、このような問題行動のなかに私語の問題が含まれることも注目すべきである。私語は学生の態度に原因があるということを示唆しているからである。さらに、そのような行動と着席位置の間に関係があることも重要な示唆であると言える。すなわち、着席位置で授業中の問題行動を予測できるからである。

第3因子は『授業の理解』の因子である。この因子は大学全体における『理解』の因子とほぼ同じ内容である。

## 2) 大学に対する態度の規定因

### (1) 授業の意欲

『授業への意欲』は大学全体の『大学満足』と0.1799、『授業理解』と0.2456、『大学に対する態度』と0.2008の相関がある。これらは低い相関だが、後2者は5%水準で有意な相関であり、特定の授業に対する意欲は大学全体に対する態度と関係があるということを示している。この因子と関係のある項目は前述の大学に関する因子の他に、個人特性の『好奇心』0.3104、『愛他性』0.2556、『規則を守る』0.2187、『抑制力』0.2324の相関がある。そこで、大学に関する3因子とこれらの個人特性を用いて、『授業への意欲』の判別分析をおこなった。結果は、判別率59.80%であり、項目と判別係数は次のとおりである。

大学満足	0.0635
大学授業理解	0.0969
大学態度	-0.1909
好奇心	0.1125
愛他性	0.0633



規則を守る	0.1884
抑制力	0.1076

以上のように、判別率は高くないが、『大学に対する態度』と『規則を守る』という個人特性が『授業への意欲』を最もよく説明する。また、『好奇心』や『抑制力』も少なくない関係がある。つまり、特定の授業に対する意欲は学生の大学全般に対する態度や『規則を守る』などの、学生の側の要因でかなり説明できる。

以上の結果は授業への意欲が学生の側の要因で決まり、教員の努力が関与する余地は相対的に大きくないことを示している。しかし、教員の側に努力の余地が全く無いとは考えられない。そこで授業に対する意欲の規定因をもう少し細かく分析するために、「授業の内容に興味がある」の項目を基準とし、その項目と有意な相関がある授業に関する項目と個人特性の項目を説明変数に用いて判別分析を行った。教員の努力により興味ある内容の授業をすることは可能であり、少なくともその努力なしに学生の意欲を批判することはできないと考えたからである。その結果判別率は77.45%となった。すなわち、大学の内容に興味を持つか否かは授業方法でかなり説明できるということである。項目と判別係数は以下のとおり。

履修前から興味を持つ	0.5352
内容が難しい	0.0204
理解できない	-0.4360
早すぎる	0.4836
授業の仕方がつまらない	0.4387
話題がつまらない	1.3022
好奇心	0.0079
愛他性	0.0297
規則を守る	-0.0401
抑制	-0.1474

以上のように授業の内容に対する興味は授業方法によってかなり説明できることがわかる。特に、「話題がつまらない」という項目の係数が大きいことから、興味をひく話題をとりあげる事が授業内容の興味を高めることにつながると言える。

以上の分析から、特定の授業に対する意欲は大学に対する態度や規則を守るといった学生の

側の要因によってほぼ決まる。このことに関しては教員の努力はあまり関係がないと言える。しかし、授業内容に興味を持つかどうかは教員の努力に多くがかかっていると言える。すなわち授業に意欲をもってのぞむかどうかは学生の側の問題だが、授業意欲の一部ではあるが、自分の授業に興味をもってもらうことは教員の努力によって成しうるということである。

### (2)授業態度

『授業態度』（着席位置を除く）は大学全体の『大学満足』と0.2754、『授業理解』と0.2353、『授業態度』と0.1957のそれぞれ5%水準で有意な相関がある。すなわち、特定の授業における学生の態度は、その学生の大学全般に対する態度と関係がある。また個人特性の『規則を守る』と0.2386の相関がある。このことを判別分析でみると、『授業態度』の判別率は62.74%である。また、項目と判別係数は以下のとおりである。

大学満足	0.0967
大学授業理解	0.0877
大学態度	-0.2237
規則を守る	0.1711
抑制力	0.0672

以上のように、授業における態度は学生の『大学に対する態度』と『規則を守る』という個人特性によってかなりの部分が説明できる。やはり、学生の側の責任が大きいということである。授業態度の分析は後述の授業行動の項で再度行う。

### (3)授業理解

『授業理解』は大学全体の『大学満足』と0.0473、『授業理解』と0.3661、『大学態度』と0.1265の相関がある。特定の授業の理解度は大学の他の授業の理解度と関係が深いと言える。個人特性とは有意な関係はない。このことを判別分析で確かめると、判別率は60.78%となる。判別係数は以下のとおり。

大学満足	0.0146
大学授業理解	0.5574
大学態度	0.0974

以上のように、特定の授業の理解度は大学の他の授業の理解度によってほぼ説明できる。すなわち、授業の理解は基本的には特定の教員の責任ではないということが言える。

とはいえ、前項と同様、授業の理解に教授方法や内容が関係しているはずである。そこで、授業の理解はどのような授業方法と関係があるのかを「授業内容が理解できない」の項目を基準として、『授業理解』の因子を他の項目を含めた有意な関係のある項目を説明変数として判別分析を行った。結果は、判別率78.43%となり、項目と判別係数は以下のとおりである。

授業内容に興味	0.3038
内容難しい	1.3218
早すぎる	0.4690
授業の仕方がつまらない	0.1610
話題がつまらない	0.4126
必修科目だから	0.1058

以上のように、授業内容が理解できない第一の原因は内容の難しさである。それゆえ、授業の内容を易しくすれば良いということになるが、このことは、授業のレベルを低下することにもつながりかねない。そこで、授業理解はやはり学生の側の能力や態度に依存することが大ということである。しかし、話題や内容によってある程度の理解の向上をし得る余地はある。それは特に話題を選ぶことである。

#### 4. 授業における行動

授業中の行動を着席位置と私語の側面から分析した。このような行動には、学生の態度等が影響していると考えられるからである。

##### 1) 着席位置

本研究の対象にした教室は図1のような席がもうけられている。この席を、前、中、後の3分割と、窓側から壁側まで4分割して態度等の要因との関係を分析した。

##### ①着席位置の前後

席の前、中、後による席に対する感想に有意な違いがある項目は、前は「よく聞こえる」、後は「見にくい」であった。学生は前の席が授業を見聞きする上でよいという感想を持っている。着席の理由は前は「見やすいから」、後は「出入口に近いから」、中は「他に席がないか



解』は0.2053の有意な相関がある。他の項目にも、「大学生活に不満」が多く ( $\chi^2=4.4270, P<.05$ ), 「大学の授業の理解」が低く ( $\chi^2=5.888, P<.05$ ), 「大学の授業がつまらない」 ( $\chi^2=8.170, P<.01$ ), また, 『意志が弱い』傾向もある ( $\chi^2=2.995, P<.1$ )。以上のように, 窓側に着席する学生は授業への意欲や態度等に問題のある者が多い。

## 2) 私語

授業中の私語の頻度は大学や授業に対する態度と個人特性と関係がある。大学に関する因子の『大学授業理解』と0.2465, 『大学に対する態度』と0.2435, 授業に関する因子の『授業態度』と0.3590, 個人特性因子の『規則を守らない』と0.2520の有意な相関がある。また, 私語の多い少ないを大学, 授業に対する態度や個人特性の全てによって判別すると, 判別率は74.5098%とかなり高い判別率になる。また, 項目と判別関数は以下のとおり。

大学満足	0.0072
大学授業理解	0.0684
大学態度	0.1556
授業意欲	-0.1243
授業態度	0.2731
授業理解	0.2936
充実感	0.1362
好奇心	-0.0876
道徳性	-0.0191
対人適応	-0.0084
愛他性	-0.0044
規則を守る	-0.2313
共感	-0.0322
きまじめさ	-0.0435
意志の弱さ	0.3031
抑制力	-0.1257

以上のように授業中の私語の頻度は, 『意志の弱さ』, 『授業態度の悪さ』, 『規則を守らない』, 『授業理解』によってかなり説明できる。すなわち, 授業中の私語の頻度は本人の性格とその

授業への取組方が主たる原因で、それに授業が理解できないことが加わって生じると解釈できる。

### 3) 授業の理解度 (試験成績)

最後に、調査を行った授業の内容の理解をその授業についての試験の成績から分析する。

試験成績と有意な相関のあるものは大学の因子の『大学満足』0.2519, 授業の因子の『授業態度』0.4889, 個人の因子の『対人適応』0.3136である。このことを前項同様判別分析によって検討すると、判別率67.64%となり項目と判別係数は以下のとおりである。

大学満足	0.0514
大学授業理解	-0.2021
大学態度	0.0438
授業意欲	-0.0069
授業態度	0.2651
授業理解	0.0253
充実感	-0.0831
好奇心	0.0463
道徳性	-0.0280
対人適応	-0.0976
愛他性	-0.0672
規則を守る	-0.1375
共感	-0.0004
きまじめさ	0.1459
意志の弱さ	-0.0383
抑制力	-0.0176

以上のように、試験成績は『授業態度』, 『大学授業理解』, 『きまじめさ』, 『規則を守る』という本人の態度や特性で説明できる。なお、『授業理解』の係数が小さいことはこの試験が客観的に測定しようとしたため、内容の理解より細かな事項の記憶の問題となったことによると考えられる。しかし、この判別分析の結果は『授業理解』と相反する結果ではなく、『理解』の問題を違う角度から裏付けた結果である。

### Ⅲ. 考 察

大学に対する学生の態度として、『大学満足』、『大学授業理解』、『大学に対する態度』の3因子が抽出された。『大学満足』の因子には授業、友人、学科・専攻の各々の満足感が含まれる。『大学授業理解』は内容が難しいということが中心で、他に理解できない、速すぎるという態度を含む。『大学に対する態度』は授業中の行動と勉学に対する態度からなる。

以上の大学に対する学生の態度の規定因は図2のように説明できる。図2と図3と図4は説明のための図であり、影響の強さの程度は判別係数、 $\chi^2$ 値から総合的に決めた。

『大学満足』は授業の方法（内容や話題）と友人関係が重要な規定因で、学科や専攻の特徴も関係する。

『大学の授業理解』は授業のレベルと本人の学力によって規定され、他に授業方法も関係す

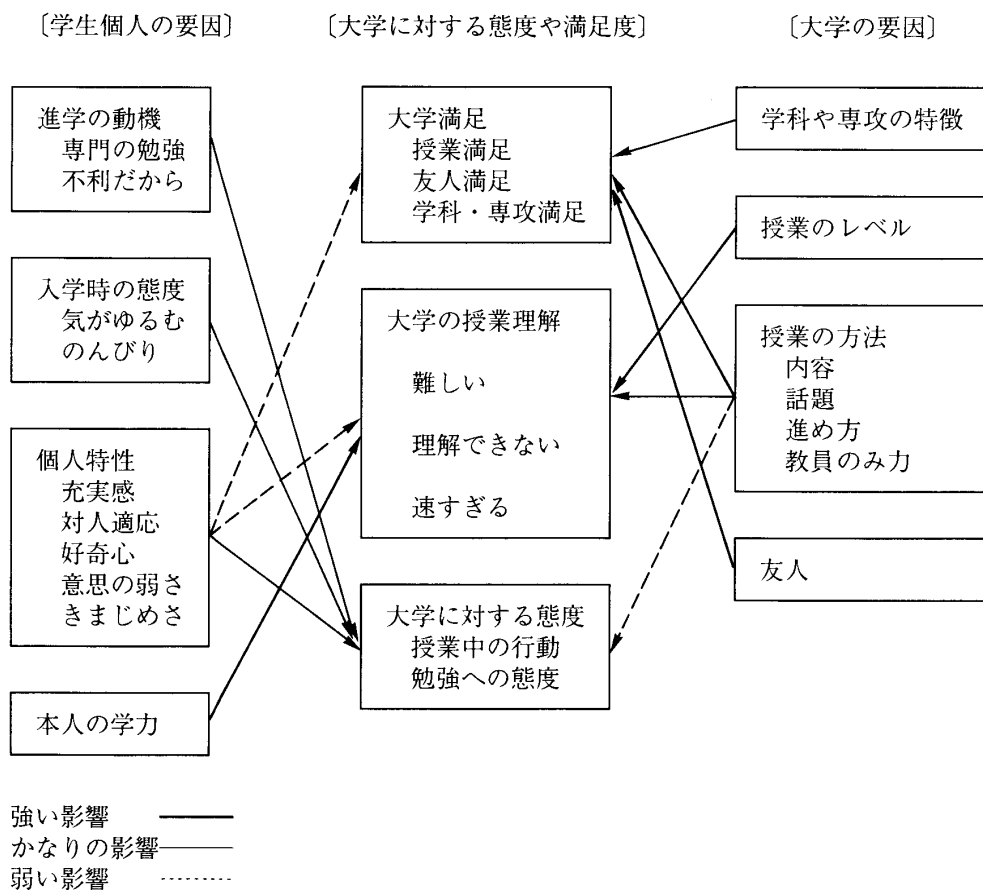


図2. 大学に対する態度や満足度とその規定因

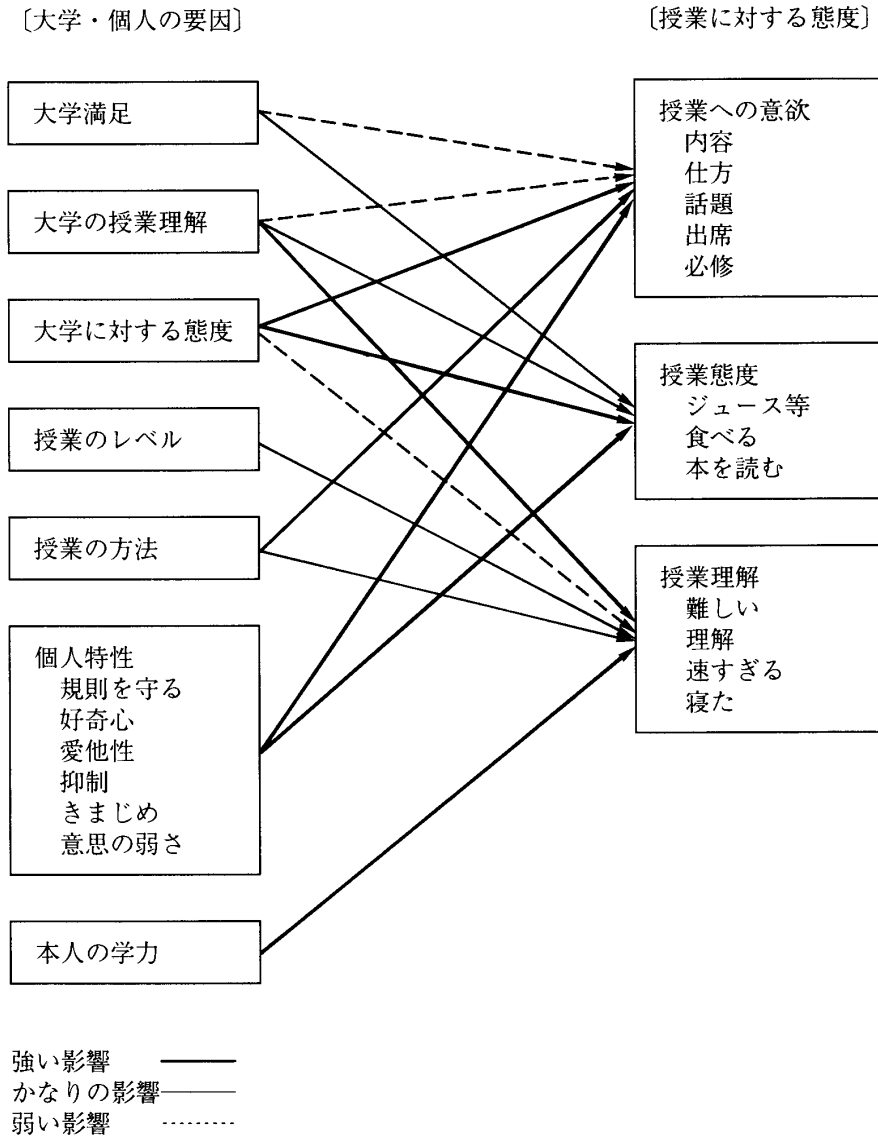


図3. 授業に対する態度とその規定因

る。本人の学力の調査項目は測定していないのに、このように考える根拠は他の要因と相関関係が少なく、説明できる割合が低いためである。

『大学に対する態度』は、進学動機、入学時の態度、個人特性、授業方法の各々の影響を受ける。このように見ていくと、『大学満足』は主に大学側の要因によって規定され、『大学の授業理解』は、学生個人と大学の要因の両者によって規定され、『大学に対する態度』は学生個人の要因の影響が相対的に大きいことがわかる。

以上のことから、学生の大学に対する態度を改善するために考えられる方法は、『大学満足』



大学生の学校適応と授業態度に関する研究

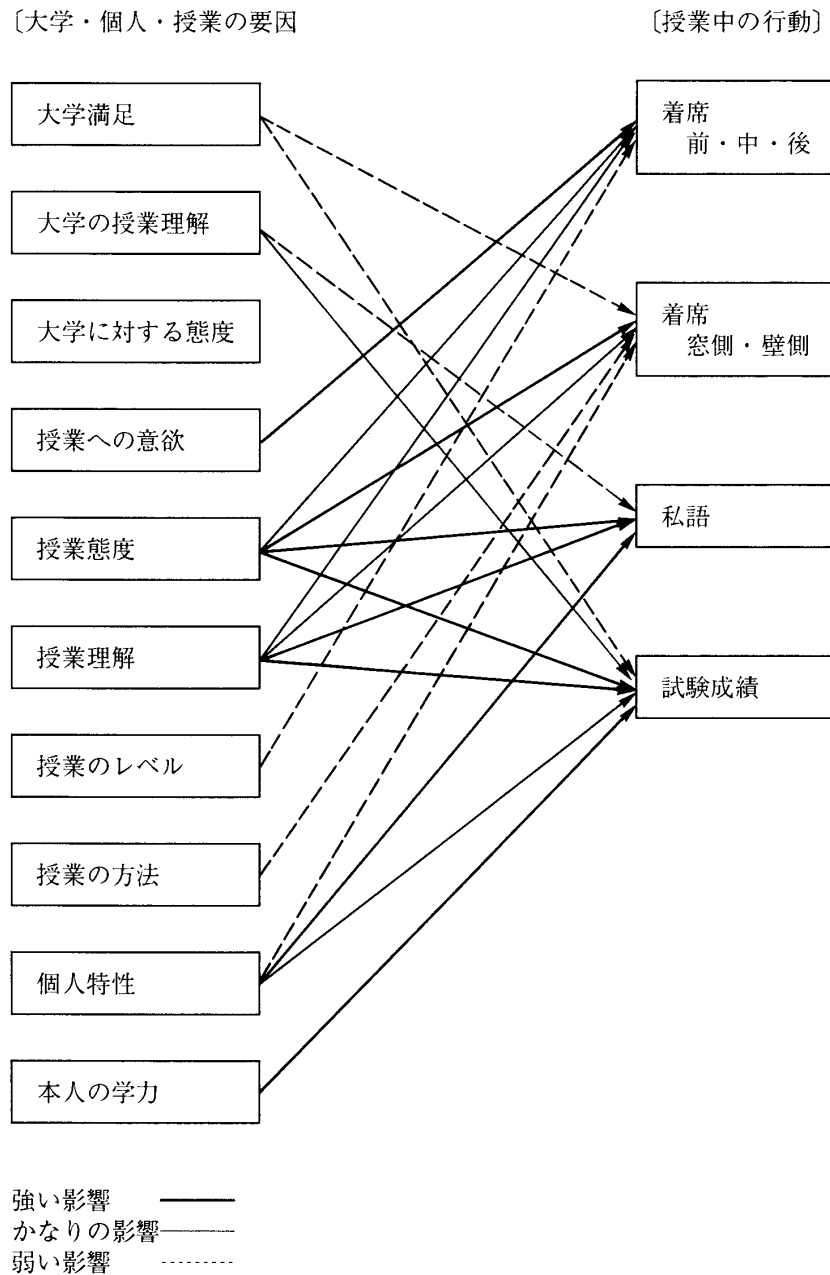


図4. 授業の行動とその規定因

を高めるために、授業方法の改善と友人関係を良好にする事が重要と言える。『大学の授業理解』は学生の学力に合わせたレベルの授業を行うか、レベルを落とさずに授業方法の改善のどちらかが有効と言える。この授業方法の改善は、主として、興味ある内容と話題である。『大学に対する態度』は、意欲ある学生の選択が大切であり、加えて入学時のガイダンスおよび授

業方法の改善も効果があると言える。

授業に対する態度は、『授業への意欲』、『授業態度』、『授業理解』の3因子からなる。これらの規定因は、図3のように『授業への意欲』では大学に対する態度、授業方法、個人特性であり、前述の大学に対する態度を改善すること、特定教員の責任としては授業の方法を改善することが必要である。

『授業態度』は大学に対する態度、個人特性、本人の学力と関係があると思われ、全項と同様の改善策が考えられる。

『授業理解』は大学の授業理解と本人の学力および、授業のレベル、授業の方法が関係する。授業に関する因子は各々、学生個人、大学、教員の要因と関係がある。特に、『授業態度』は学生個人の要因と、関係が深く、個々の教員の努力の余地が比較的大きいのは『授業への意欲』と『授業理解』である。とはいえ、授業に関する因子とも教員の要因よりは学生個人の要因と関係が深く、教員の努力によってこれを改善することは簡単ではない。

授業中の行動は図4のように大学、個人の要因、大学の要因のいずれからも影響を受ける。特に、私語と授業理解の試験成績はこれらによって規定されるところが大である。ここで特に言えることの第一は、着席位置は学生の授業や勉強に対するいろいろな態度の影響をうけるということである。そして着席位置でこれらの態度を予測できるということである。

第二に、私語は授業態度などの学生個人の要因によって決まるということである。私語を教員の側から改善するためには理解度を高めることである。

第三に、授業の理解度は学生の学力や態度などの学生の要因と関係が深いということである。

以上のように、大学生の大学全般に対する態度、授業中の行動について分析をしてきたわけだが、このような態度や行動は互いに関係が深いものであった。ということは、大学生の大学における不適応や授業中の問題ある態度・行動といったものは互いに関係し、ある一つの問題に対処して改善すればよいというものではないということである。例えば、授業中の私語の問題を改善するためには、興味のある理解しやすい授業を行なうことが大切で、これは教員の責任であるが、それだけでは不十分であるということである。すなわち、私語の問題を解決するためには、学生の大学や勉強に対する態度を改善し、そもそも、意欲や好奇心や抑制力のある学生を入学させることが必要だということである。このように、大学生の問題ある態度や行動と対処するためには、教員、大学、そして社会全般について考える必要がある。大学及び大学人の責任はよい授業をし、学生が満足できる大学環境を整備し、意欲ある学生を入学させる努力をすることである。

#### Ⅳ. 引用文献

- 松井洋 1991 青年期における愛他行動の発達とその規定因 川村学園女子大学紀要 Vol. 2, pp. 181-193.  
中里至正・加藤義明・杉山憲司・松井洋 1990 非行抑止要因の文化差に関する研究—日本・韓国・米  
国・中国の高校生を対象として— 日工組調査研究財団報告書